

熊本県立甲佐高等学校 令和7年度（2025年度）学校評価表

1 学校教育目標

「夢実現 ～可能性への挑戦～」

ア 教育方針

- (ア) 県教育委員会関係課から出されている「令和7年度教育指導の重点及び取組の方向」を基本に、本校「五綱領」を踏まえ、社会に貢献する生徒の育成を目指す。
- (イ) カリキュラム・マネジメントを推進し、チーム学校の一員として、生徒・職員・家庭・地域一体となって、活気ある学校づくりを目指す。

イ 教育目標

(ア) 健全な心身の育成

- ①学校の教育活動全体を通して、人権尊重、道徳を含む生徒の心身の向上に努める。
- ②体験学習・ボランティア活動を通じて、人を思いやる心（恕の心）や、奉仕する心を育てる。
- ③部活動を活性化させ、行動力、協調性、社会性を磨く場とする。
- ④教育環境を整備し、生徒の健康・安全教育の徹底を図る。

(イ) 学力向上と進路指導の充実

- ①一人ひとりの学力や個性に応じた「参加する授業」を工夫し、自ら学び考える力を育成する。
- ②面談やLHR等を通じて、将来の進路目標を早期に設定できるように支援し、キャリア教育の視点から自己実現に取り組むようにする。

(ウ) 地域社会と連携した学校づくり

- ①一人ひとりの活動する機会を工夫する。
- ②地域社会との連携を通して、あいさつやマナー等基本的な生活習慣を身に付けるようにする。
- ③地域と連携した教育実践を更にすすめる。
- ④地域の方々に来校いただく機会を増やすことで、生徒を中心に地域、家庭、学校、関係機関等との相互理解を深め、信頼される学校づくりを目指す。

(エ) 郷土を支える人材（人財）の育成

- ①地域の方々と触れ合う機会を通して、郷土への理解を深めると同時に、郷土を愛する心を育てる。
- ②地域創生の観点からも、将来的に地域社会・経済を担っていく人材、ひいては、組織で必要とされる人的な財産としての人材を育成する。

ウ 熊本県立甲佐高等学校の目指す生徒像

創立105周年の歴史を誇る学校  
「夢実現」  
～可能性への挑戦～

【学習・進路】  
(自主性・高い進路目標)

- ・一時間一時間の授業を大切にし、学力向上に挑む生徒。
- ・学習することの意義や目的を考えて授業に参加する生徒。
- ・習熟度別学習などを通して、学習に対する意欲を高め、「予習→授業→復習」という学習計画を立て、実行する生徒。
- ・返却されたテストを基に自分の強みや弱点を分析し、更なる理解に挑む生徒。
- ・早期から、将来の進路目標を設定し、その達成のため、主体的に学習を進める生徒。
- ・学びの基礎診断ツール等を活用することにより、自己の適性を的確に把握し、進路目標に挑む生徒。
- ・体験学習を通して、勤労観や職業観の必要性を理解し、進路に生かす生徒。
- ・「公営塾」を活用することで基礎学力を高め、自己の長所を伸ばすことに挑む生徒。

【生活】  
(基本的生活習慣の確立)

- ・自ら進んで初対面の人に対しても挨拶ができ、誰に対しても誠実な態度で接することができる生徒。
- ・人権を常に尊重し、思いやりのある言葉遣いで、他者とのコミュニケーションをとることができる生徒。
- ・交通法規やマナーを常に遵守し自他の生命を大切にする生徒。
- ・スマートフォンやSNS等の正しい使用方法を遵守し、モラルの向上を図る生徒。
- ・社会のルールに従って、節度ある行動をとることができる生徒。
- ・自分の長所や短所を把握し、自己の能力の伸長に励む生徒。
- ・校歌を大きな声で歌うことにより、母校愛を高める生徒。
- ・甲佐高校の生徒として誇りをもって生活することで、友人、先生、保護者、地域の方々等から信頼を得ること。
- ・日々の生活の中で、今まで身に付けたことを応用し、課題の解決に取り組むことができる生徒。

【特別活動】  
(心身の鍛練)

- ・部活動に積極的に加入し、日々の活動を通して心身の健全な育成を図る生徒。
- ・学校行事や生徒会活動等に積極的に参加することにより、自己肯定感を高め、自信を持って行動できる生徒。また、自分の所属する集団に貢献することができる生徒。
- ・ボランティア活動や地域の行事等に積極的に参加することにより、郷土を愛する心を高め、地域社会の発展に寄与する生徒。
- ・人との活動の中で、グループの一体感を作り出すことができる生徒。
- ・体験活動を通して、社会人としての在り方を考え、自分の将来像を描くことができる生徒。
- ・地域の小・中学校との交流を積極的に図り、本校のPR活動に励む生徒。
- ・地元企業等との交流を通して、郷土を支える人材（人財）に成長する生徒。



## 2 本年度の重点目標

### ア 基本的な生活習慣の確立

- (ア) 正しい言葉遣い、爽やかなあいさつを身に付けさせ、社会に適応する力を育てる。
- (イ) 時間を厳守し、遅刻や欠席のない生活習慣や身だしなみを確立する。
- (ウ) 交通マナーやSNS等、社会のルールに対する規範意識を高めさせ、地域を支える人材を育てる。
- (エ) クラスや地域に貢献し、甲佐高校生として自覚と誇りを育てる。

### イ 教師の授業力向上、個に応じた学習指導と進路指導

#### (ア) 「授業力」の向上

生徒が主体となる授業の工夫を重ねるための授業研究、公開授業を活用する。また、生徒からの授業評価を日々の授業の実践に生かす。

- (イ) 個別の添削、面接指導等により個々の能力に応じたきめ細かな指導を行う。
- (ウ) 夢実現のため図書館や進路指導部等の活用をすすめる。
- (エ) 日々の教育活動を通じて生徒理解に努め、共通理解を図る。
- (オ) 学習教材アプリを活用し、生徒の自学力向上を組織的に努める。

### ウ 特別活動（生徒会・部活動等）を生かした自主性、創造性、奉仕の精神などの育成

- (ア) 部活動や委員会活動等へ積極的に参加できるよう運営や時間を工夫し、教育活動全般を通じて人権教育、道徳教育を行う。
- (イ) 学校行事、ボランティア活動などを通じて、自ら考え、行動できる生徒に育て、将来的に郷土を支える人材（人財）を育成する。

### エ 地域と連携した教育活動

- (ア) 広報活動や学校運営協議会（総合型コミュニティスクール）等を通じて、地域社会に対し本校教育への理解と協力を深める。
- (イ) 保護者との面談や家庭訪問を計画的に行い、家庭と学校の連携を密にするとともに地域社会、特に小・中学校との連携を深める。
- (ウ) 組織的な探究活動の充実及び効果的な魅力発信を行い、入学者の増加を図る。  
※熊本スーパーハイスクール（KSH）構想のクリエイティブハイスクール、スーパーグローバルハイスクールの指定を受け、地域連携・協働による教育活動に誠意をもって丁寧に取り組み、更なる充実を図る。

### オ 言語環境の整備

- (ア) 学校生活全体を通じて、言語に関する理解や関心を深め、言語環境を整えるとともに総合的な言語能力（読む・書く・聞く・話す）の習得並びに実践する態度を養う。
- (イ) 図書館の充実を図る。

### カ 教育相談体制の充実

- (ア) 全ての教育活動を通して、生徒理解と実態把握に努め、心の教育の充実を図る。
- (イ) 各校務分掌や教職員間の情報共有を図り、いじめの早期発見や対応、特別な配慮を要する生徒への対応等、教育相談体制を更に充実させる。
- (ウ) 中高連携を更に充実させ、外部の専門機関との連携を深め、生徒を支援する組織力を高めると共に、日々の学校生活に有用感や達成感等を得させ、家庭とともに生徒が自身の進路実現に向けて主体的に取り組むよう係わりを持つ。

### キ 防災教育の徹底

- (ア) 熊本地震、令和2年水害を教訓とした防災教育の充実を図る。
- (イ) 地域社会、関係機関等との連携を更に図り、風水害等の災害に適切に対応する防災体制を強化する。

### ク 令和の日本型学校教育の視点から考える甲佐高校型「インクルーシブ教育」の推進

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	魅力ある 学校づく り	自ら気づき考 え行動する生 徒の育成 主体性と協調 性を兼ね備え た生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事等に自ら主体的・協働的に参加する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての学校行事に生徒を中心に創造的な企画と運営に取組ませるよう指導する。</li> <li>学校行事での役割分担と協力体制を明確にし、生徒一人ひとりが達成感を味わえるようにする</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事において諸アンケートにおいて満足度の高い結果を得た。満足度の向上に向けた具体的な改善策の実施が今後の焦点である。</li> <li>校内運営委員会を中心に各分掌が工夫や改善を行いやすい組織を整備する。</li> </ul>
		探究的活動・ ボランティア 活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら主体的に体験することで、奉仕や勤労、人の心や命を大切に、人権を尊重する心を育むと同時に、この活動を自己の進路目標に役立てる</li> <li>魅力企画・発信委員会と探究活動委員会、学科をとおした活動の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生地域探究活動、2年生インターンシップ、ビジネス情報科の地域特産物販売、福祉教養コースの施設訪問等を行い、文化祭での発表、学びの祭典での発表や展示を行う</li> <li>年度末アンケートを実施し、目標の達成度を確認する</li> <li>校外でのボランティア活動に生徒一人一回以上は参加させる</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関等との連携を行い、計画した活動を実施することができた。</li> <li>災害や学童保育等のボランティアを含め、町や地域の企画に参加する機会を多く得て、生徒の学びを深めることができた。</li> <li>町や連携企業等との連携について組織的対応ができるよう校務分掌等の環境を整備したい。</li> </ul>
		部活動や生徒 会活動委員会 活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して活発に活動する部活動や生徒会活動・委員会活動の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動力、協調性、社会性を学び人格形成の場とする</li> <li>しっかりとした活動計画を立て、安全で楽しく学べる部活動とする</li> <li>全生徒により作上げる生徒会活動、委員会活動の指導を行う</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>国や県の指針に則った部活動を行うことができた。部員数の多少にかかわらず、生徒主体の活動を実施できた。生徒会活動や委員会活動は生徒の主体性を引き出すきっかけとなった。</li> <li>生徒の主体性を引き出す具体的活動方針を検討していきたい。</li> </ul>
	地域社会 に根ざし た信頼さ れる学校 づくり	地域との連携 ・協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携を深める事業の構築</li> <li>公営塾（あゆみ学舎）への入塾者の増加（各学年10人以上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会や関連した会議を通して、連携を深める</li> <li>公営塾（あゆみ学舎）との情報交換を適宜行い、生徒の入塾や企画参加を促す</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心がある生徒には体験期間を設けた利用を可能とするなど、利用促進に向け工夫がなされていた。PR動画作成の際は企画から作成まで大きな役割を担った。入塾者は前年程度（今年度は利用促進のため入塾なしでの利用も多かった。昨年12名程度）であった。また、塾長は学校行事や地域の活動にも参加し、生徒との交流を深めた。</li> <li>引き続き町や連携企業との調整役として連携を深めていきたい。</li> </ul>

	保護者・地域等との連携と広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信の強化</li> <li>本校のPR機会を増やし、入学者の増加に繋げる。</li> <li>次年度の入学生60人以上、最低でも各クラス15人以上を目標とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPの随時更新、「学校だより」の発行、広報甲佐への投稿による情報提供により、本校の教育活動を積極的に発信し魅力を伝える</li> <li>中学校を定期的に訪問する</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報保護等に対応するため校内の環境整備を行ったが、アンケート等ではホームページの一層の充実が求められている。なお、前期の志願者は29人である。</li> <li>校内の校務分掌を整理するとともに、連携企業とも連携し、一層の情報発信に努めたい。</li> </ul>
	緊急時対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアル、緊急時対応マニュアルやすぐーるを活用し危機管理対応力を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時対応マニュアルを基に避難訓練や救急救命講習等を実施する</li> <li>大規模災害の発生を想定した対応訓練の実施</li> <li>危機管理マニュアルの改訂と充実</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民とともに避難訓練を実施した。全職員・全生徒で緊急救命講習を実施し危機発生時の動きを実践した。</li> <li>より一層の防災意識高揚のため次年度当初に避難経路の確認を行う予定である。</li> </ul>
業務改善 ・働き方 改革	新委員会の発 足による業務 の平準化	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革の推進を踏まえた校務運営の改善</li> <li>職員の業務の偏りを少なくし、特定の職員に背負わせた負担を軽減する</li> <li>生徒との関わりの時間を確保し、生徒の不安や困り感を解消できる環境をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した業務の効率化を図る</li> <li>毎月衛生推進委員会を実施し、勤務状況を把握、分析し対応策を全体にアナウンスし個々に示す</li> <li>業務の見える化を全部署で行い、全職員で共通理解を図りながら校務を行う</li> <li>学校改革のための3委員会の機能を発揮し、本校の生徒募集に全職員が係る意識を高める</li> <li>生徒・保護者とのかかわりを丁寧に行い信頼関係を築き、将来の目標を設定し、その実現に向けて協働する</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生推進委員会を必要に応じて開き、職員の心身の健康状態把握や情報共有を行った。その結果、昨年度並みの超過時間が低位で推移した。新委員会により担当業務の整理を行うことができた。</li> <li>新委員会の業務整理により校務分掌の刷新につなげたい。</li> </ul>
	休暇を取りやすい職場環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議等の効率化と研修の効果化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や定期考査時に会議や研修を入れない</li> <li>職員研修を朝会時や長期休業日期間に実施し、タイムリーで効果的な研修にする</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修の効率的な実施により、考査期間中の午後や長期休暇中の実施を最小限にとどめることができた。創出された時間には、ゆとりある生徒対応や休暇取得等に充てることができた。</li> <li>生徒と職員のよりよい関係性構築に向けた安定した面談等の時間確保のためより一層の行事予定の検討を行いたい。</li> </ul>

<p>学力向上</p>	<p>授業力の向上</p>	<p>「分かる授業づくり」の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業の積極的な実施</li> <li>・公開授業の活発化</li> <li>・ICT機器の利活用</li> <li>・授業に対する生徒の受け止めの把握と改善</li> <li>・主体的・協働的・深い学びを主体にした授業の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業週間の設定、積極的参観、地域・関係各所への案内</li> <li>・全ての授業による協働的学びの実施</li> <li>・授業評価アンケートの実施</li> <li>・教科会で授業の検討会の実施</li> </ul>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受検生の本校授業見学数が年々増加していることなどから、中学生に本校教育内容が概ね伝わっていると考えられる。</li> <li>・本校生が落ち着いた環境で学習に取り組んでいる状況を大切にし、自主的に学習に取り組む態度を育成する。</li> </ul>
	<p>個に応じた「分かる」学習指導</p>	<p>授業の理解と個別指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業理解についての肯定的評価を80%以上とする</li> <li>・学習指導及び評価が一貫した授業展開</li> <li>・個別最適な学びと協働的学びを両立させた授業の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導法、生徒理解情報の共有</li> <li>・身近な題材、体験的・活動的学習</li> <li>・常に観点別評価を更新する</li> <li>・TT実施の授業での個別指導だけでなく、全教科による個別の課題配付（指示）による授業外の指導の実施</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケートにおいて、授業わかるの回答が、85%以上であった。国数英の習熟度授業においても、各個人に合わせた課題と授業内容が準備され、先生方の工夫の成果が見られた。</li> <li>・スタサブ等を活用し、より一層個人に合わせた最適な学びが実現するように努める。</li> </ul>
	<p>学習に対する意欲・姿勢</p>	<p>自ら学ぶ意欲</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に対して、自ら意欲的に取り組んだ体験を持つ生徒を100%とする</li> <li>・自学力向上委員会によるスタディサプリを活用し自学力の向上につなぐ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の徹底、課題学習</li> <li>・将来（進路）につなげる学習指導</li> <li>・あゆみ学舎（公営塾）との連携</li> <li>・スタディサプリの利活用について個々への具体的指示と学ぶ意欲を引き出す</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら課題解決に向かう姿が多くなり、スタディサプリの使用で、個人に合わせた学びを進める生徒が多くなった。模試を受験する生徒も増加し、将来の進路につなげる学習もできつつある。</li> <li>・課題を最後まで粘り強く仕上げていく態度も必要である。今後も、場面に応じて個別に指導していく。</li> </ul>
<p>キャリア教育（進路指導）</p>	<p>自らの可能性に挑戦し、進路目標の実現を目指す</p>	<p>自己実現に繋がる早期の目標設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路目標の早期設定。3年次8月までに100%とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の視点に立った進路学習の実施</li> <li>・進路ガイダンス等への参加</li> <li>・タイムリーな進路情報の提供</li> <li>・生徒による活動の振り返りの実施（2年次末から）</li> <li>・2年次からの二者面談や三者面談の実施</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生は、2年次からの取組により、早期の進路目標の設定が達成された。2年次は年度後半から進路LHRを計画し、進路意識の向上につなげる指導を行っている。</li> <li>・年間の各学年の指導計画を年度初めに立てることができるとより見通しをもつての指導に当たることができる。</li> </ul>

		進路目標実現のための努力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職・進学希望者全員の進路目標達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人票公開システム「ハンディ進路指導室」を利用した求人情報の提供</li> <li>・3学年や各教科との連携、情報の共有</li> <li>・個別学習指導の実施</li> <li>・進路ガイダンスや職場見学の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月現在、未決定生徒に対しても個別伴走型の支援を継続している。</li> <li>・1・2年生に関しては進路ガイダンスや各種見学を通して進路意識の向上に努めた。</li> <li>・従来に比べて、生徒それぞれの状況に応じた進路指導が求められる。様々な情報収集を行う必要がある。</li> </ul>
生徒指導	個を尊重した生徒指導	基本的な生活習慣と言語環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の適切な言葉遣いを育む</li> <li>・授業への遅刻をなくす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面で、全職員が言葉遣いに対する指導の意識を強く持つ</li> <li>・授業時間を守る指導の徹底</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年次からの適切な言語習慣の定着に向けた継続的な指導を強化する。</li> <li>・授業への遅刻は少ないが、登校時の遅刻等、生活リズムの確立に向け、登校習慣の再徹底を図る。</li> </ul>
	安心・安全	甲佐高校生としての自信と誇り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動を未然に防ぐ</li> <li>・生徒会主催行事の充実（スポーツフェスティバル、青垣祭）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題行動の未然防止のための職員間の情報共有及び保護者との連携</li> <li>・多様な問題行動に応じた公的な公共機関との連携した指導</li> <li>・昨年度の反省を生かした企画・運営</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有によるいじめを含む問題行動の重大化や長期化は防ぐことが出来た。</li> <li>・学校行事についてはアンケート結果を反映した計画を行う。</li> </ul>
		携帯電話の危険回避と適切な利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット・SNS利用が関係する問題行動件数の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル講演会の実施</li> <li>・インターネット・SNS利用に関するアンケートの実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生のトラブルは必ず発生しているが、早急な対応により重大事案への発展は防止できている。</li> <li>・専門機関からの講話等を計画し新入生のSNSによるトラブル防止に繋げる。</li> </ul>
		交通安全教育の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通違反、事故件数の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原付通学生実技講習会の開催</li> <li>・通学方法別の状況把握のための校外指導の実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車通学生の転倒事故等が発生した。一昨年度から参加しているバイク通学生の実技講習会を継続した。</li> <li>・登下校時の事故発生で警察への連絡が徹底されていない事例が見受けられたため、その場での対応を確実に実行できる指導が必要である。</li> </ul>
人権教育の推進	人権尊重の精神	人権に関する理解の深化および豊かな人権感覚の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権課題の解決に向けた学習の実施と差別をなくそうと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育講演会の実施</li> <li>・人権教育LHRの実施</li> <li>・人権が尊重される環境づくり（</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会、LHRを実施できた。家庭訪問や面談で生徒及びその背景の理解に努めた。</li> <li>・早期の計画づくりと家</li> </ul>

			する態度の育成	授業、言語環境等) ・家庭訪問、面談を中心にした背景理解		庭訪問の意義や理解を研修などで広める。
		研修の充実と推進体制の強化	・計画的な校内研修の実施 ・年間1回以上の校外研修等への参加	・人権教育推進委員会の活性化 ・校内研修の実施 ・校外研修への参加促進	A	・計画的に委員会や研修を実施し、校外研修も全員が積極的に学習していただいた。 ・年間を通じた日程等を早期に周知する。
	命を大切に育む指導	自他の命を大切に育む心	・「自他の命を大切に育むHRやLHRでの取組の実施 ・生徒の感想等とめ事後指導を実施 ・教育相談体制の充実	・委員会で指導案検討や情報共有をし、職員会議、研修等による共通理解 ・相談窓口等の周知 ・SC、SSW等の専門機関等と生徒・保護者職員の連携強化	A	・職員会議や研修等による情報共有、相談窓口の周知を行った。SC、SSW等、専門機関や町との連携を強化できた。 ・関係機関との連携の様子を委員会のみならず、研修で情報共有を進める。
いじめ防止等	いじめ防止と早期の発見	「いじめ防止基本方針」及び「いじめを許さない」行動指標の定着	・生徒、職員、保護者の連携 ・学校独自に作成したSNSの使い方・言葉遣い等についての行動指標の点検	・職員研修等の充実 ・「心のきずなを深める月間」に各クラスで代議員が中心となった学習を実施 ・上の取組の中でSNSの使い方・言葉遣い等についての振り返りを実施	B	・きずな月間で代議員が活動し、メディアにも取り上げられ、文化祭でその成果を発表した。6月と11月、2月にアンケートを実施した。 ・代議員会の活動をより活性化し、主体的な活動になるよう、明確な目標をつくる。
		いじめ未然防止のための情報集約と組織的な取組	・生徒、職員、保護者の意識向上によるいじめ未然防止、早期発見、早期対応の組織づくり ・一人の教員が抱え込まない組織的な情報集約を実施、いじめ未解決件数0とする体制づくり	・「心のきずなを深める月間」の取組等を通してのいじめ防止のための意識向上 ・いじめ防止対策委員会の充実(定例開催、随時開催) ・職員会議、学年会等での情報集約の研修実施、共通理解の深化を検証	A	・いじめ防止対策委員会を適宜開催した。情報集約担当者と連携し、組織的に対応しつつ、研修を実施した。 ・情報集約からいじめ防止対策会議に即時につながるよう体制づくりを継続し、情報共有を進める。
特別支援教育	個々への適切な支援	特別な支援を必要とする生徒の把握・対応	・個別の支援計画、指導計画の活用 ・生徒、保護者、専門機関との連携 ・診断テストの実施	・支援計画・指導計画の定期的な評価、検証(校内委員会、職員研修での共有) ・各種機関との情報交換 ・校内研修の充実 ・生徒を多角的に把握するために診断テストを検討し実施する	A	・支援計画の作成、研修での活用を行った。巡回相談、ケース会議などで外部専門機関と連携し、生徒の支援に生かすことができた。 ・来年度も支援学校職員と合同研修を実施。
		コミュニケーション能力を	・SST、心理教育の実践 ・コミュニケーション	・交流面談の実施 ・交流面談により得た情報を職員間で共有し生徒	A	・交流面談を実施し生徒の実態を多面的に把握することができた。各

	育む	対処する力を身につける	ーションの機会を増やす	理解と指導に役立てる ・SST、ストレス対処法LHRの実施		学年の実態にあったストレス対処LHRを実施することができた。 ・希望者には、LHRだけでなく、SSTを実施する。
保健環境	健康管理能力の育成	健康に対する自己管理能力を高める	・自分の健康状態を把握し、管理する力を育成し、けがや病気を防ぐための生活を送ることができるよう、保健指導を行う	・ほけん便りや掲示物による啓発を行う ・個別保健指導の実施する ・把握した情報は職員間で共有し、組織で対応する	B	・スマホによる健康被害やスマホとの付き合い方について、文化祭やクラス掲示ポスターで啓発した。また、歯の治療が必要な生徒へ、夏休み前と冬休み前に個別指導を行った。 ・感情のコントロールが苦手な生徒が多いため、特別支援と連携し、個別指導を実施する。
	環境整備	安全管理と主体的に環境美化に取り組む意識の向上	・安全点検の実施 ・環境ISOの周知	・職員による安全点検を前・後期はじめに1回ずつ実施 ・保健環境美化委員による環境ISOチェックの実施（週1回）	A	・期休み明けに点検を実施し、不備には対応した。ISOチェックや美化週間時の点検を通じて、環境美化意識の向上を図った。 ・次年度も引き続き、特別掃除区域の検討など環境美化意識の高揚に努めたい。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	学校運営協議会制度の充実	学校運営協議会の支援による特色ある学校づくり	・学校運営協議会の組織的・継続的な実施（年2回）	・協議内容を精選した上で活動報告を行う ・担当者との連携を深め、活発な意見交換・情報交換を促進する	A	・学校運営協議会委員から甲佐高校活性化の提案を日常の校務に生かすことができた。十分に協議会の役割を果たすことができた。 ・今後数年間、甲佐高校の在り方において重要な時期であるため、協議会の重要性をより自覚して実施していきたい。
	地域防災および防災教育の確立	生徒・職員の防災に関する意識の向上	・地域と連携し、地域における防災についての理解を深める ・防災意識の向上	・地域と連携した防災訓練の実施 ・避難訓練と関連付けた防災教育の実施 ・スピーディな避難訓練のための生徒への事前指導の徹底 ・避難先の保存食、保存飲料の保管・試食の経験を行う	A	・地域と連携した防災訓練は、本校生徒が地域住民との交流とともに、高校生としてできることを考える機会となった。 ・次年度も引き続き、近隣住民を含めた実施など防災意識の高揚に努めたい。

#### 4 学校関係者評価

評価は昨年度並みである。取組自体は一定の成果を得ることができた。以下は学校関係者から出された評価についての総括的な内容である。

##### 【生徒募集・学校魅力発信の強化】

本校独自の魅力や教育内容をより効果的に発信するため、広報戦略を再構築する。本校の特色や授業内容、行事の魅力を日常的かつ効果的に発信し、中学校や地域へ学校の魅力を広く届けていく必要がある。

##### 【地域連携の深化（探究・企業協働）】

地域企業とのアルバイトやスポットワークの活用、協働イベントの企画など、生徒が地

域で学ぶ場を増やす取組が求められており、探究活動や進路意識の向上につながる協働体制の一層の充実が必要である。

#### 【進路指導の早期化・挑戦意欲の育成】

生徒や保護者に将来像を早期に具体化させる働きかけが重要であり、進路希望100%にとどまらず、より高い挑戦を促す進路指導へと発展させ、1年次から計画的に取り組む体制の強化が必要である。

#### 【行事・体験活動の魅力向上と発信】

生徒の行事に対する高い熱量を学校の魅力として生かし、行事の充実や体験型企画の拡大を図るとともに、メディア発信を強めることで、学校の魅力を地域や中学生へより効果的に伝えていくことが求められる。

#### 【学校の特色・強みの明確化と育成】

本校ならではの独自の強みをさらに明確化し、広く周知していく必要がある。情報発信を担う機能の拡充を図ることで、明確な学校の強みを育て、継続的に外へ示していく取組を進める。

#### 【公立・私立の環境差への対応戦略】

無償化による私立優位の状況を踏まえ、公立としての強みである個別指導体制や通学条件などを再整理し、私立との差別化を意識した魅力づくりと情報発信を強化することが求められている。

#### 【個別指導体制の強みの発信】

外部委員から高く評価された「徹底した個別指導」を本校の大きな強みとして明確に打ち出し、生活指導を含む手厚い支援体制を学校の安心感として積極的に広報へ反映していくことが重要である。

#### 【生徒の地域での可視化と活動促進】

高校生が地域で見える機会を増やすため、地域行事や企業連携、ボランティアなどへの参加をさらに推進し、地域の中で生徒の存在感を高めることで、本校への信頼と認知の向上を図る必要がある。

## 5 総合評価

### 【本年度の学校教育目標についての評価】

「夢実現～可能性への挑戦～」の下、生活習慣の確立、学力向上、地域連携、キャリア教育の各面で着実な成果が見られた。探究・ボランティア、防災訓練、いじめ防止、人権教育等は高評価で、地域と協働する学びが生徒の自己肯定感と社会性を高めた。新入生増加にも寄与しており、スクールポリシーに基づく教育活動の方向性は妥当である。一方、広報の更なる強化や進路実現の全員達成には継続的改善が求められる。

### 【本年度の重点目標についての評価】

重点に挙げた「基本的生活習慣の確立」「授業改善と個別最適な学び」「特別活動の活性化」「地域連携の推進」では、授業評価アンケートの活用や公開授業週間、スタディサプリ・公営塾との連携等により学習意欲と自学力が向上した。行事やボランティア、地域連携防災訓練は生徒主体性を育み満足度も高かった。ホームページ等の更新や中学校訪問による魅力発信は一定の成果を上げ、新入生増につながった。

一方で、私立の強力なPRとの比較で広報力強化の必要性、行事の魅力をさらに外部発信する工夫、進路目標の早期具体化と「挑戦」を促す指導の深化が今後の重点となる。

### 【自己評価総括表に対する評価】

総括表はA評価が多数を占め、地域連携、探究・ボランティア、教育相談、人権・防災等で高い達成が示された。一方、B評価の「広報」「部活動・生徒会の具体的方針」「進路目標の全員達成」「言語環境・遅刻」「保健指導」は課題として明確化された。協議会でも広報力強化、特色の明確化、地域での可視化、進路指導の早期化が提起されており、次年度計画に反映可能な改善点が整理されている。

## 6 次年度への課題・改善方策

次年度に向けては、まず本校の魅力発信をより加速させる必要がある。入学者数の伸長については、魅力が十分に伝わりきっていない現れと捉え、ホームページやSNS等による日常の学びの発信や、中学校・地域との対話機会の拡大を通して、「ここでしか得られない価値」を明確に示していくことが重要である。

また、一定の成果をあげてきている進路意識面や生活面のより一層の改善については、社会的自立を促す教育的機会として捉え、地域との連携を生かすことも含め、全職員が一貫性ある関わりを徹底し、生徒が自信を持って社会へ踏み出せる生活基盤の再強化を図る。

さらに、進路決定100%という目標を達成するためには、早期からの目標具体化と挑戦意欲を引き出すよう工夫していく。小さな成功体験を丁寧に積み上げ、最後までやり抜く粘り強さを育む支援を充実することで、生徒一人一人の「夢実現」を確かなものにしていく。